

会議録

令和7年3月19日提出

会議の名称	西東京市公民館運営審議会 令和6年度第9回定例会
開催日時	令和7年2月19日(水) 18時30分から21時10分まで
開催場所	柳沢公民館 視聴覚室
出席者	委員：西原みどり(会長)、小須田厚子(副会長)、高橋浩一、辻康一、荒井容子、荒井茂、小池教之、下坂小百合、石川健、青木美紀子、ギログリー江美、松本静 職員：福所館長、市川事業係長、山本分館長(田無)、根岸分館長(芝久保)、一之瀬分館長(谷戸)、安島分館長(保谷駅前)、星野事業係主任
欠席者	高井正、城石雅行
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 審議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和6年度第7回定例会会議録(案)について(資料1) (2) 令和6年度第8回定例会会議録(案)について 2 主催事業について <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和6年度公民館主催事業報告について(資料2) (2) 令和6年度公民館主催事業計画について(資料3) (3) 令和6年度まちなか先生について(資料4) (4) 令和7年度西東京市公民館事業計画について 3 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 行政報告 (2) 公民館だより編集室報告 (3) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告 4 事務連絡及び情報交換 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第61回東京都公民館研究大会について (2) 令和6年度第2回利用者懇談会について (3) 西東京市公民館運営審議会ハンドブックの改訂について (4) その他 (5) 令和6年度第10回定例会の開催について
会議資料の名称	【配付資料】 資料1 令和6年度第7回定例会会議録(案) 資料2 令和6年度公民館主催事業報告書 資料3 令和6年度公民館主催事業計画書 資料4 令和6年度まちなか先生実施状況
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
傍聴者	<input checked="" type="checkbox"/> あり(4名) <input type="checkbox"/> なし
会議内容	1 審議事項 (1) 令和6年度第7回定例会会議録(案)について(資料1) ●令和6年度第7回定例会会議録(案)について承認 (2) 令和6年度第8回定例会会議録(案)について ●令和6年度第8回定例会会議録(案)については、近日中に送付予定。各自内容を確認し、1週間を目途に修正意見を事務局に送ることとする。 2 主催事業について (1) 令和6年度公民館主催事業報告について(資料2) ○事業係長 今日、欠席のA委員からメールで、高齢者の課題を考える講座「アクティブシニアのライフ

スタイルを考える～老後の10万時間をどう過ごしますか?～」（ひばりが丘）については、「全5回のうち4、5回目の講師を担当させていただいたが、講座開始後の読みやすいアクティブシニア通信の発行、各回の状況の丁寧な報告、講座終了後の次の活動につながる振り返りの会の様子の報告など、参加者への寄り添う姿勢とともに担当職員の丁寧な仕事振りには頭が下がる思いがした。また、講座には西東京市地域サポート『リンク』の生活支援コーディネーターが毎回複数人参加し、振り返りの会にも参加した。地域教育を担う公民館と地域福祉を担うリンクとの協働体験の積み重ねは、今後の公民館事業の展開にとっても様々な可能性をもたらすのではないかと感じている」、「田無公民館サークル見学月間」（田無）については、「事業内容と参加者の評価がコンパクトに整理されていて、取組全体の様子を理解することができた。この事業によってサークルに入会した方々が多いことに驚いた。今後も振り返りを踏まえ、必要な改善を重ね、継続していくことを期待している」という主旨の感想、意見をいただいた。

○B委員

高齢者の課題を考える講座（ひばりが丘）について、振り返りシートに書かれたコメントをアクティブシニア通信にまとめ、次の回に配布したとあるが、受講者の感想や受け取ったことが次につながっていく、このような細かい配慮は受講者にはありがたいのではないかなと思う。

○C委員

高齢者の課題を考える講座（ひばりが丘）について、充実した内容だと感じた。担当の考察・課題欄に、自分自身の事を考えると共に、社会への影響や起こり得る課題について考え合えることができる講座を考えていきたい」とあるが、どういうふう展開するのか。今回の講座では、高齢社会の問題を西東京市の中で、あるいは、日本社会の中でどのように考えていくという事は取り上げなかったのか。

○事業係長

1、4、5回目で、現在の人口構成や残された時間があと何万時間ということ、社会の動き、社会変化、超高齢社会のこと等、社会のことに触れたが、みんなで考える時間は取らなかったと思う。そういうことを踏まえたうえで自分はどのように生きるかということを考えて。

○C委員

1980年代の話だが、長野県で、家庭で夫や親の介護を担っていた女性たちが、老後について考える学習会を展開し、老人ホームの調査等も行い、高齢者施設の在り方や行政施策について考え、「65歳からの生き生き宣言」というものをまとめて、注目された。芝久保交流会（芝久保）では、高齢者だけで話すのではない一歩踏み込んだ内容が提案されていたと思う。1～2年後に、高齢になっていくたくさんの人たちを元気づける一方で、高齢社会の課題は自分たちの課題であり、将来の人たちの課題であるとして学ぶような講座につながる仕掛けがあるとよいと思う。

○D委員

暮らしに役立つ実学講座2「スマホの安全名使い方教えます！」（芝久保）の講師を担当した。について、保公民館のスマホ講座の講師をさせていただいた。この講座は、スマホを防災に活用するという点からスタートした講座であるため、スマホに東京都の防災アプリを入れて、一番近くの避難所に3つのグループに分かれて歩いて行くという回もあった。歩きながら和気あいあいと話しながら学べて非常に有意義だった。その中で、他のアプリも紹介できた。

○分館長（芝久保）

講師の下坂委員に加えて、アシスタント4人、公民館専門員2人がサポートとして入って運営した。基礎的なところから実用的なところまで、わかりやすく教えていただき、参加者それぞれに新たな発見があり、好評だった。

○E委員

先日、危機管理課主催で避難所運営協議会を対象にしたフォローアップ研修があり参加したところ、芝久保公民館職員も参加していた。職員がいろいろな活動に参加して多角的に考えていることはすばらしい。

○B委員

「くらしを彩る講習会」（谷戸）について、報告書を読んで楽しそうだと感じた。「すごく

感動した」「ほっとした」等の感想があり、参加者の心が躍っている感じも伝わってきた。公民館を知ってもらう機会として実施しているということだが、楽しい経験を通して、公民館の事を知ってもらうのはよいと思った。

○C委員

「くらしを彩る講習会」は、回ごとに定員が設定されているが、連続講座ではないのか。

○分館長（谷戸）

回毎に参加者を募集し、各回異なる方が参加した。この講座は大変人気があり、応募多数で抽選になってしまう。

○C委員

「くらしを彩る講習会」（谷戸）について、各回募集であるのならば、各回の応募者数も書いてもらうとよかった。暮らしに役立つ実学講座（芝久保）は、初心者対象だったのか、初級、中級の人が混在した講座だったのか。

○D委員

参加者は初心者の方たちだった。

○F委員

「田無公民館サークル見学月間」（田無）について、自分の経験から、参加者は女性の方が多いのではないかと思う。公民館の利用者も女性の方が多いのではないか。利用したくなくれば利用しなくてよいという考え方もあると思うが、私は、男性に参加を呼びかけてほしい。例えば、男性がメインとなっているサークルに呼びかけるとか、高齢男性だけを対象としたスマホの講座を行うとうか、工夫が必要ではないか。

また、通学している生徒がインターハイに出場する時など、校舎に横断幕や垂れ幕が出て、とても目立つ。公民館も事業の垂れ幕等を出す等の工夫をしてほしい。

○事業係長

「くらしを彩る講習会」（谷戸）について、先ほど、C委員から各回の応募状況を報告書に書いてほしいという要望があったが、報告書の備考欄に書かれている。それを見ると、第3回目の「コーヒーの愉しみ方」に男性31人が申し込んでおり、コーヒーは男性が参加しやすいテーマだったと考えられる。こういうことも参考にしながら、男性が参加しやすい事業について検討していきたい。

○E委員

駅前フェスタ（保谷駅前）に行った時、オレンジカフェでコーヒーを飲んでい高齢の男性が「居場所がない。公民館にいつもこういうコーヒーが飲める場所があったら自分は毎日でも来たい」と言っていた。そういう意味でニーズはあると思う。

○事業係長

どの館にも、ロビーで新聞を読んでいる固定の方がいる。ざわざわした人の存在を感じられる中で読みたいというのがあるのではないか。そういう方たちに声をかけたりして、いい距離感で接していければいい。

○G委員

高齢者の課題を考える講座（ひばりが丘）のサブタイトルに「老後の10万時間」とあるのを見て、そんなに時間があるのかとか自分はどういう風にするのだろうかと思った。参加者アンケートの中にも「高齢者に限らないで、40代、50代の方に是非聞いていただきたい」という声がある。老後の迎える前の今のうちに蒔いておいた方がよい種があるような気もする。趣味でも少しやっておく。やっておくことで地域につながりができて、地域の仲間ができたから一緒にやれることが老後に出てくる。そういう意味では、高齢者向けの課題を考える講座とは、また別かもしれない。こういうテーマを早い段階で広く世代を問わずに開催することは、まさに公民館の講座の発展にもつながるような気がする。例えば、コーヒーについて今学んでおけば楽しめる時間が長いわけで、アクティブシニアの年齢になったときにそれを基にさらに深めることができると思う。

○事業係長

私が担当したライフデザイン講座「仕事なんか生きがいにするな～世知辛い世の中を自分らしく生きる」（柳沢）は20代から50代までを対象とした講座だが、今回、オンラインで参加し

た社会教育実習生2人から、「私の世代の参加者はいなかったけれど、今のうちに知れてよかった。社会に出るときにこの考え方は役にたつ」というような感想をいただいた。現役世代が先を見つめるという視点を持つことに、この講座の発展性があると思うので、担当者に伝えたい。

○G委員

実際にアクティブシニアの年齢の方でも時間の過ごし方は人によって違う。活動しているアクティブシニアの方の生の声を聞けたらいい。講座の中で実際に実践して輝いている人の話も交流できる機会があるといい。

○C委員

現役世代ではなく高齢の世代でも同様のことがいえると思う。80代になって介護サービスを利用することになった知人が、もう少し早い時期に知っていれば、準備することができたと言っていた。後期高齢者の人たちが、生き生きするだけでなく、介護サービスのことを学んだり、どういうケアを受けたいかを話したりできるような機会があればと思う。

○H委員

「田無公民館サークル見学月間」（田無）について、事業実施後にたくさんの方がサークルに入会していて、感心した。自分が所属しているサークルで体験会をしたときは、見学者0人、または見学には来たけれど入会は0人が普通だったことを考えるとすごい獲得率だと思う。要因が思いあたれば公民館の中で共有していただきたい。半面、入会したら成功と、入会しなかったら失敗ということではないと思うので、体験会や見学会を続けていただきたい。

○I委員

「田無公民館サークル見学月間」（田無）に足を運ぶ方は、自分から行動を起こした方。公民館だより見て参加する方は、公民館だよりを見るという行動を起こした方。そういう意味での行動を起こす意識を持っていない方、興味を持っていない方への啓発には、アピールの仕方の工夫が大切だと思う。どんな形が取れるかわからないが、目に入ってくるようなアピールが必要だと思う。

○B委員

教養講座「脳の秘密 食欲と眠気はどこからくる？」（柳沢）について、「心当たりがあって感動しました。結局、意志の力で抑えるしかないのかと思いました」という感想を読み、勉強だけで終わったとしたら、もったいないなと感じた。講座で、同じような眠れない大変さをかかえていることや今まで言えなかったことなどが共有されていたと思うが、その先に、何かあったらよかったのではないかと思った。

○事業係長

オンライン担当として講座を聞いていたが、科学的にこういう仕組みになっていて、こういう現象が起こっているということをお話されていたので、グループでの受講者の感想の伝え合いを聞いても、仕組みがわかってよかったと安心する方がむしろ多かったと思う。

○C委員

サロンコンサート「冬に舞う東風の便り～子どもから大人まで本格的なクラシックコンサート～」(芝久保)について、乳幼児から参加可能としたが、「3歳以下はお断りした方がよいのでは」という参加者の感想がある。この点について、どのような議論をしたか、伺いたい。

○分館長(芝久保)

参加者の年齢構成は50代以下が16人、60代以上が23人で、3分の1が男性だった。乳幼児も参加することは広報していたが、今までのコンサートに参加していた方もいたので、泣いたり声を出したりする乳幼児がいることは「演奏者に対して失礼ではないか」という概念もあったのではないかと思う。演奏曲は、子どもも楽しめるものから本格的なものまで多様性があった。多様な年齢の方が一緒に音楽を楽しめたことがよかったと考えている。今後、乳幼児から参加できる形で行う場合は、工夫して実施したい。

○C委員

乳幼児以上を対象とし、演奏者もそれを踏まえて行うとして企画されたコンサートだったが、否定的な意見が出てきたことに対して、それを否定するのではなく、その心持ちを受け止める。その人たちが変わっていくかもしれないし、乳幼児と一緒に来た親御さんたちが、もし

かしたら否定的な思いを持つ人がいるかもしれない思いを寄せていくような関係を作っていくと、雰囲気が変わるのではないかと思う。ただ分ければよいということではなく、その工夫が必要ではないか。工夫によって、それぞれ新しいコンサートの受け止め方が出てくるのではないかと思う。

○J委員

0歳児をお持ちの方々にとってはとても欲しているコンサートだったのではないかと思うが、どの年代も対象とすると不満足な方も出てくるので難しい。私たちの演奏会では、声を発するようだったら会場を出ることを了解していただいた上で、断ることはせずに、小さい子どもも受け入れている。

○E委員

演奏付きのプラネタリウムを見た時、最初に、演奏者が「感動したら声を上げていいし、どんどん楽しんでね」と言ってくれた。いろいろな声が出たが、みんな、「ああそうなんだ」という感じだった。演奏者に最初にそのように話していただくとよいのではないかと思った。

○J委員

にぎやかな吹奏楽などの場合は、声を出してもいいというところが多い。音楽の種類にもよるかもしれない。

○事業係長

公民館のロビーで静かに勉強したい人と仲間で話したい人がどうお互いに理解を求めていくかの問題に似ている。公民館の講座でも、知識を得るために来たつもりが隣の人と知り合いになれて、想定と違ったが得るものがあって想定していた以上のものになったという経験をする場合がある。コンサートでも、音楽を聴きに来たけれど、子どもがいて一緒に聴く喜びのようなものを得られて、想定と違ったがよいコンサートだったとなるような取り組みがあるとよいのではないか。知らない人と一緒に聴くというのではなく、聞きに来た人同士をつなぐような取り組みがあるとよいのではないか。

○G委員

「田無公民館サークル見学月間」（田無）に関連してだが、それぞれの館で同様の取り組みをしていると思う。西東京市公民館全体で統一的去ることが何かあってもいいと思う。各サークルの入会は随時受付中というのが一般的だと思うが、随時だとあまりメリハリがない。例えば大学のサークルの新入生勧誘活動のように、4月を入会募集月間と設定して、各館の共通の取り組みとして行ってはどうか。西東京市に6つの公民館があることすら知らない人もいる状況なので、地域には公民館がこれだけありますよ、サークルのジャンルはコーヒーから能までありますよ、何百のサークルがありますよ、活動している人の声はこうですよというのがあって、その月間中にたまたま図書館に来た人がそれを目にとめて、というのが、統一的にあるといいと思った。そうすると柳沢図書館に来たついでに見た人が、「あ、そうなのだ。田無にもあるのだ。では問い合わせてみよう」という風になるかもしれないので、面であまく活動が広げられたらいいのではないか。

(2) 令和6年度公民館主催事業計画について(資料3)

○C委員

防災講座「災害時の備えは万全ですか」（保谷駅前）について、保谷駅前公民館は練馬区との境に位置していることや駅ビルのテナントとの関係について、どのように留意して企画したのか、伺いたい。

○分館長（保谷駅前）

今回の講座の企画にあたっては、練馬区との境にあることや駅ビルのテナントとの協働について、特に留意していない。今回は、北東部地域協力ネットワーク「ほくっとネット」（以下「ほくっとネット」）との共催事業で、一緒に検討を重ねる中で、地域の中で自助を進め減災につなげることに重点を置いて企画した。

○公民館長

ステアビルでは、管理組合主催で、テナント、公民館、図書館が合同で防災訓練や避難経路の確認等を行っており、ビル中での連携や連絡調整はしっかりできている。防災講座は公民館

の講座であるので、地域課題を捉えながら地域との連携、自助・共助の学びというところで組み立てている。

○C委員

他館の防災講座では、周りの地域の集合住宅の管理組合や自治会等との連携があったと思う。この講座は、「ほくっとネット」の地域での防災活動から出てきたニーズを踏まえての講座なのか。それとも、「ほくっとネット」は防災活動があまり行われていない地域で、はじめの一步として実施する講座として受け止めればいいのか。

○K委員

防災講座（保谷駅前）は、まだ地域に根付いていない部分がある「ほくっとネット」を知っていただくことも目的にしている。拠点の一つである保谷駅前公民館の防災講座で、防災に興味を持ってもらおう、地域のネットワークも知ってもらおうという内容になっている。

○C委員

他館の防災講座では、中高生が企画するなどの工夫をしている。「ほくっとネット」の人たちと連携して、人が参加する工夫をするとよいと思う。

○E委員

保谷駅前公民館と「ほくっとネット」が共催する防災講座は、今回で2回目。「ほくっとネット」に加わっている荒屋敷自治会は、市内の井戸について調査をしている。例えば「西東京市の井戸と防災」というようなキャッチフレーズで、取り組んではどうか。井戸は下保谷、北町にもいっぱいあるし、栄町には給水所もあるので、自治会の方ともよく協議してそういう調査を盛り込むと、住民の方は行って聞いてみようかなという気になる。次年度に向けて検討していただきたい。

(3) 令和6年度まちなか先生について(資料4)

●担当職員より、令和6年度まちなか先生の実施状況について報告

○L委員

校長の立場としては、もう知識・技能で勝負する時代ではないので、インプット重視でなくてアウトプット型の講座を期待したい。子どもたちが自ら判断して考えていくような講座だとありがたい。また、西東京市カルタの講座を見学して感じたことだが、カルタの札の表現が、現代の社会において容認できるかものであるかどうかの判断基準もしっかり持っていただきたい。

○I委員

自分たちが住んでいるまちを知ろうという郷土講座では、学校の要望も取り入れた資料を作成していただいた。来年度以降のまちなか先生についても、学校側のニーズや要望も聴いて、講座を企画していけるよう、意見交換の場があるとよいと思う。

○公民館長

カルタ講座については対応させていただいた。また、学校側のニーズと公民館側の対応できるもののマッチングが大事だと思う。SDGsや環境問題等の現代的課題もある。学校のニーズを把握した上で、何ができるか、どういった発展をしていけるかななどを検討していきたいと考えている。貴重なご意見に感謝する。

○事業係長

A委員からまちなか先生についてもご意見をいただいているので読み上げる。「もしこれまでまちなか先生を実施していない学校があるようであれば、働きかけをお願いしたい。地域の大人との触れ合う経験は意味あるものであると考える。また、教員にとっても公民館の存在を理解してもらういい機会であると考えている。」

○C委員

先ほどL委員から、まちなか先生に参加した生徒がアクティブになるよという話があったが、例えばまちなか先生の防災講座で公民館主催のBOSA Iカフェを紹介し、生徒たちがそこに参加するというようなイメージなのか。まちなか先生の時間だけで終わらず、公民館に子どもたちがよく来て関わるとよいうイメージが持てれば、子どもたちが本当にアクティブに地域の方とつながっていく気がする。私は参加していないし見てもいないのでよくわから

ないが、可能ならそのようにつなげると面白いと思う。

(4) 令和7年度西東京市公民館事業計画について

- 事業係長より、令和7年度西東京市公民館事業計画案の概要について説明。令和7年度は通常業務に加え、公共施設予約管理システム入れ替えに伴う業務や4館で施設改修工事を行うことを踏まえて事業計画を作成したことを伝えた。
- C委員
事業概要に記載されるべき内容が事業名になっていたり、内容がわからないような事業概要であったりするなど、事業計画の書き方が整理されていないと思う。
事業名を変更した場合はその理由、事業数を減らしたのであればその内容、継続事業であれば内容は今年度とどう異なるのか等がわかると、私たちも意見を出しやすい。事業名で継続か新規かがわかり、継続事業の場合は事業概要で来年度の内容や今年度との違いがわかると議論しやすい。
- 委員の発言を受けて、事業係長及び各館分館長が、各館の令和6年度との変更点を説明
 - ・柳沢 教養講座及び地域防災講座を休止する。令和8年度は実施する予定。
 - ・田無 趣味講座を実施せず、代わりに夏休みに親子を対象とした手工芸の講座を実施する。若い世代のサークルの発足を期待する。
 - ・芝久保 創作講座を教養講座に変更する。「サークル見学・体験会」は、よりサークル活動に関心を持ってもらえるような形に変更し「ちいさな展示会と講習会」として実施する。
 - ・谷戸 夏休みに実施していた子ども対象講座、教養講座、地域の人々の展示会を休止する。
 - ・ひばりが丘 高齢者の課題を考える講座を休止する。「西東京市不登校情報ネットワークハートラインにしとうきょう」と共催で実施してきた「子どもの課題を考える講座」については、令和7年度に1年かけて、今後どうするかを団体と検討する予定。
 - ・保谷駅前 高齢者対象講座、社会問題を取り上げてきた映画会を休止する。
- B委員
柳沢公民館の「子どもをとりまく課題を考える講座」は保育付きで実施するのか。
- 事業係長
保育付きで、土曜日または日曜日に実施する予定。
- C委員
田無公民館の「田無公民館まつり」の事業名が「田無公民館ロビーまつり」に変更した理由を伺いたい。
- 分館長（田無）
田無公民館では、耐震改修工事後の令和4年度からロビーで田無公民館まつりを開催しており、広報も「田無公民館ロビーまつり」で行ってきたので、今回、事業名を変更した。
- C委員
芝久保交流会（芝久保）について、以前、高齢者だけでなく幅広い世代が参加できる場にしていきたいという報告があったと記憶しているが、来年度にどうつなげるのか。
- 分館長（芝久保）
今年度は、ポッチャや合唱、創作活動などを行ったが、来年度は参加者の感想等も踏まえてより充実した形で行いたい。最終的には自分たちで企画立案していく形につなげられればと考えている。ご高齢の方々がサークルを運営していくのは厳しいので、そこをいかに支えていけるかを視野に入れながら検討していきたい。
- M委員
ひばりが丘公民館の上映会の「社会の課題」とはどのようなジャンルか。
- 事業係長
ひばりが丘公民館は来年度「高齢者の課題を考える講座」を休むので、超高齢社会を課題にした映画を上映する方向で検討している。
- M委員

アドラーの心理学を勉強したが、高齢者が過去を振り返る時、自己肯定感を持つのに非常に有効な心理学だと思う。自分が生きてきた時間を振り返る時、その当時の、あの日あの時の情景をフィードバックできる映画が高齢者には受ける。高齢者に、その時代時代に合わせた解説をしながら映画を見てもらうと自己肯定感につながるということがわかっている。高齢者を対象に映画会を企画すると反応があるのではないかな。

3 報告事項

(1) 行政報告

○公民館長

大きく4点ある。まず、1月26日に教育委員会臨時会があり、2月18日に教育委員会の定例会があった。公民館に関する質疑は特になかった。

2月18日に総合教育会議が実施された。総合教育会議は市長部局と教育委員会の情報共有や懇談等の場である。その中で令和6年度の教育に関する重点施策について、公民館は「障害のある人とともに学べる事業」について説明し、該当する2事業について報告した。一つは柳沢公民館の「みんなで踊ろう！柳沢ディスコ」。車いすの方や若者、高齢者の参加があり、障がいの有無を問わず、10代から90代までの幅広い世代の市民の交流の場となっている。もう一つは谷戸公民館の「インクルーシブな社会をめざす講座」で、この数年は「ポッチャで仲間づくり」をテーマに実施してきた。特に意見や質問はなかった。

校長会が2月14日にあり、市民企画事業のポスターの校内掲示を依頼した。1月の公運審定例会では、ひばりが丘公民館の「子どもの課題と向き合う講座 不登校の子どもに寄り添うために親の役割を考える」の案内を学校のメール斉配信システム「すぐー」を活用させていただいて広報を行ったことを報告したが、

2月25日から市議会が始まるが、市長の施政方針が示され、それを受けて代表質問、一般質問が行われる。施政方針では、公民館について、学生ボランティアがかかわる講座やイベントなどを開催し、引き続き多世代のサードプレイスになるよう努めていくことが取り上げられている。

(2) 公民館だより編集室報告

- 担当委員より、2月17日開催の公民館だより編集室会議について報告

(3) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告

- 担当委員より、1月30日開催の委員部会について報告

4 事務連絡及び情報交換

(1) 第61回東京都公民館研究大会について

- 参加した委員と職員が、実施内容と感想等を報告

(2) 令和6年度第2回利用者懇談会について

- 各館の日程と出席する委員を確認

(3) 西東京市公民館運営審議会ハンドブックの改訂について

- 西東京市公民館運営審議会ハンドブックの改訂案について検討

(4) その他

(5) 令和6年度第10回定例会の開催について

日時：令和7年3月19日（水）午後6時30分

場所：柳沢公民館 視聴覚室